

令和7年度

学校評価のまとめ

船橋市立習志野台中学校

令和7年度 学校評価 (生徒用)

学年 (全学年)

※ 評価 A：よくあてはまる B：だいたいあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない ?：わからない

	評 価 内 容	評 価 (%)				
		A	B	C	D	?
1	あなたは、進んであいさつをしている。	40.4%	52.9%	4.8%	0.7%	1.2%
2	あなたは、基本的生活習慣が身についている。	28.9%	59.1%	8.2%	1.7%	2.1%
3	あなたは、安心して学校生活を過ごしている。	50.5%	42.8%	3.8%	0.5%	2.4%
4	あなたは、授業の内容がわかる。	27.0%	57.6%	11.3%	2.2%	1.9%
5	あなたは、家庭学習をしている。	23.0%	46.4%	22.0%	7.7%	0.9%
6	あなたは、よく読書をする。	16.5%	27.0%	35.9%	19.1%	1.5%
7	あなたは、期日を守って提出物を出している。	40.4%	45.5%	9.5%	3.1%	1.5%
8	あなたは、部活動や習い事に一生懸命取り組んでいる。	67.7%	25.4%	2.9%	1.9%	2.1%
9	あなたは、自分の健康に気を配って生活している	35.7%	49.1%	10.3%	2.6%	2.2%
10	あなたは、ルールやマナーを守るように心がけて生活している。	51.4%	44.3%	2.6%	0.3%	1.4%
11	あなたは登下校を含め、安全に気をつけて生活している。	58.4%	37.1%	2.6%	0.2%	1.7%
12	あなたは、悩みを相談できる先生がいる。	35.9%	40.4%	8.2%	5.3%	10.1%
13	あなたは、習志野台中学校の生徒でよかったと思う。	50.7%	38.5%	1.9%	1.2%	7.7%
14	学校は、生徒の悩みや困り事に適切に対応している。	30.6%	47.1%	6.9%	1.4%	14.1%
15	学校は、アンケート調査を実施するなど、いじめの早期発見・対応に努めている。	49.0%	38.0%	3.8%	2.1%	7.2%
16	授業では、話し合い活動をよく行っている。	48.8%	44.5%	3.6%	0.5%	2.6%
17	授業では、その時間の「目標」が提示されている。	31.3%	50.7%	11.2%	1.9%	5.0%
18	習志野台中は、行事が盛り上がる。	71.3%	23.5%	2.1%	0.3%	2.7%
19	習志野台中は、学習や運動しやすい環境が整っている。	46.4%	44.7%	4.3%	0.5%	4.1%
20	学校は、授業等でICT機器 (Chromebookや電子黒板等) をよく活用している。	58.1%	34.5%	4.6%	0.9%	1.9%

令和7年度 習志野台中学校 学校評価 (保護者)

※ 評価 A：よくあてはまる B：だいたいあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない ?：わからない

	評価内容	評価(%)					合計	A+B
		A	B	C	D	?		
1	お子様は、進んであいさつをしている。	25.7%	55.8%	11.1%	1.6%	5.8%	100.0%	81.5%
2	お子様は、基本的な生活習慣が身についている。	39.8%	50.9%	5.1%	3.7%	0.5%	100.0%	90.7%
3	お子様は、安心して学校生活を送っている。	37.8%	51.9%	5.8%	2.5%	2.0%	100.0%	89.7%
4	お子様は、授業の内容がわかると言っている。	13.8%	55.0%	20.5%	6.2%	4.5%	100.0%	68.8%
5	お子様は、家庭学習をしている。	19.3%	42.5%	28.8%	8.8%	0.6%	100.0%	61.8%
6	お子様は、よく読書をしている。	12.1%	19.9%	36.1%	31.4%	0.5%	100.0%	32.0%
7	お子様は、期日を守って提出物を出している。	32.6%	45.0%	11.9%	6.6%	3.9%	100.0%	77.6%
8	お子様は、部活動や習い事に一生懸命取り組んでいる。	60.6%	29.2%	4.1%	5.1%	1.0%	100.0%	89.8%
9	お子様は、病気・けが予防や食事に関する意識が高い。	17.9%	48.1%	26.7%	5.3%	2.0%	100.0%	66.0%
10	お子様は、地域の行事に積極的に参加している。	6.0%	23.2%	43.5%	22.6%	4.7%	100.0%	29.2%
11	学校は、お子様が理解しやすいように授業を工夫している。	10.5%	55.2%	11.1%	2.1%	21.1%	100.0%	65.7%
12	学校は、授業等でICT機器を効果的に活用している。	16.6%	53.4%	5.5%	1.6%	22.9%	100.0%	70.0%
13	学校は、生徒の学力や成績を適切に評価している。	12.5%	65.3%	8.8%	1.4%	12.0%	100.0%	77.8%
14	学校は、社会のルールやマナーを身につけさせようとしている。	18.1%	65.1%	4.9%	1.4%	10.5%	100.0%	83.2%
15	学校は、子供にとって悩みや困った事を相談しやすい。	10.5%	55.6%	12.3%	6.6%	15.0%	100.0%	66.1%
16	学校は、スクールカウンセラーに相談しやすい体制を整えている。	10.3%	46.8%	9.7%	3.9%	29.3%	100.0%	57.1%
17	学校は、保護者や地域への情報提供を積極的に行っている。	15.6%	61.2%	9.7%	1.6%	11.9%	100.0%	76.8%
18	習志野台中学校区では、地域・保護者における子どもの見守り活動が充実している。	10.3%	46.6%	11.9%	2.5%	28.7%	100.0%	56.9%
19	学校は、アンケート調査を実施するなど、いじめの早期発見に努めている。	11.1%	52.8%	7.0%	2.7%	26.4%	100.0%	63.9%
20	学校は、いじめ防止に対して積極的に取り組んでいる。	12.5%	48.5%	8.2%	2.7%	28.1%	100.0%	61.0%
21	学校は、個に応じた指導・支援を行っている。	13.1%	50.5%	12.9%	4.1%	19.4%	100.0%	63.6%
22	体育祭や合唱祭等の学校行事で生徒が積極的に取り組んでいる姿が見られる。	51.9%	42.7%	0.8%	0.8%	3.8%	100.0%	94.6%
23	学校は、学習や運動しやすい環境が整っている。	22.6%	62.8%	5.7%	1.2%	7.7%	100.0%	85.4%
24	学校は、登下校指導や避難訓練等の安全教育に努めている。	19.1%	60.0%	2.7%	1.0%	17.2%	100.0%	79.1%

令和7年度 学校自己評価 教職員対象アンケート集計結果

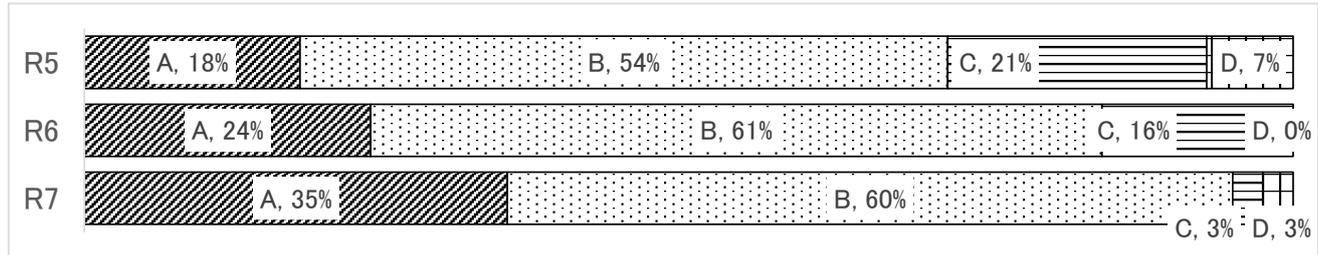
※ 表記について 注：四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

A 良い B やや良い C やや改善が必要 D 改善が必要

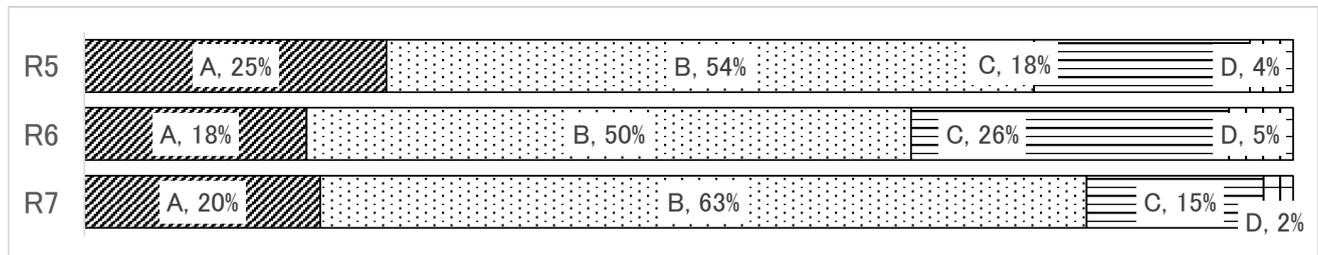
※ グラフの並びについて

上段：令和5年度 中段：令和6年度 下段：令和7年度

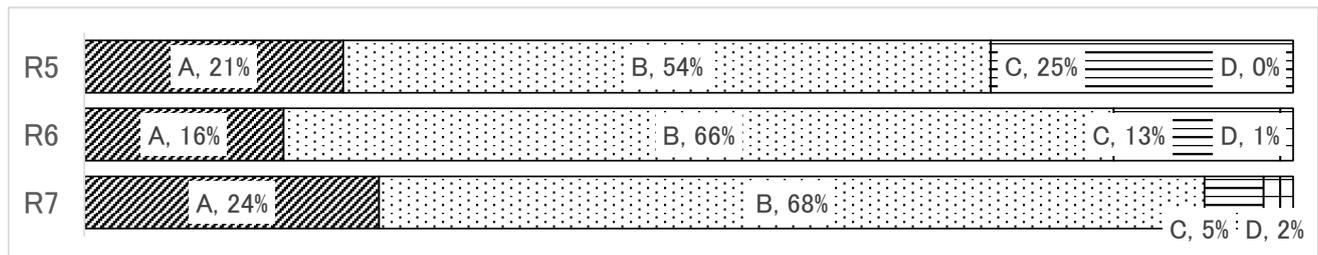
1 校訓および学校教育目標（「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒の育成～）の具現化に向け、「目指す生徒像」（自学・挨拶・掃除・時間）に迫ることができた。



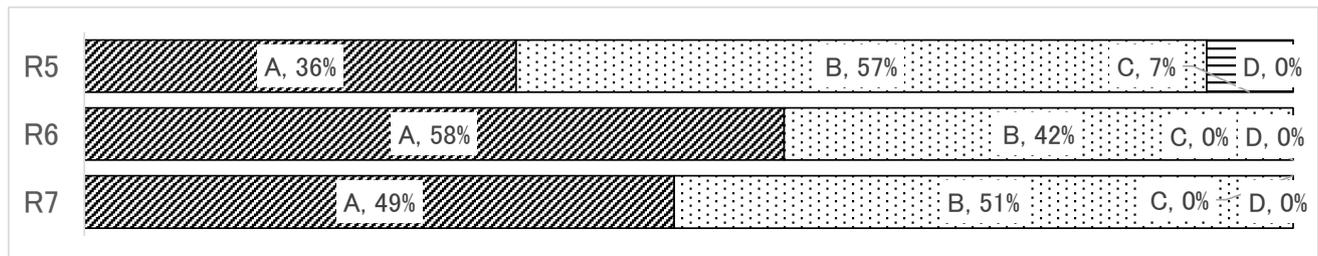
2 校訓および学校教育目標（「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒～）の具現化に向け、「目指す教職員像」（生徒に寄り添う・わかる授業・地域を愛する）に迫ることができた。



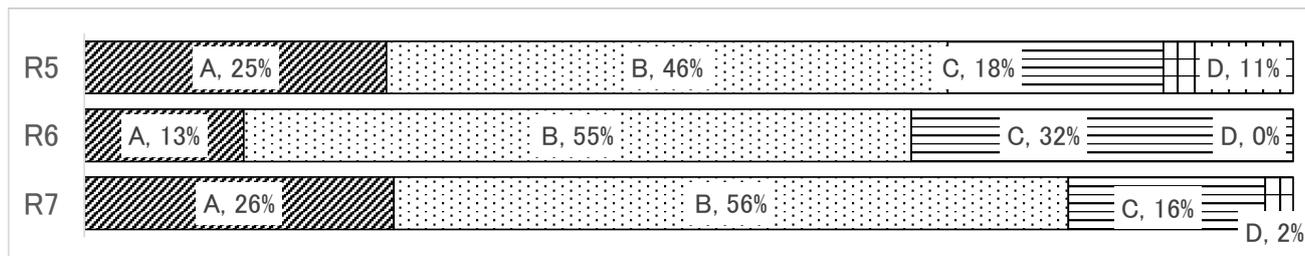
3 校訓および学校教育目標（「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒～）の具現化に向け、「目指す学校像」（学ぶ意欲・正義・安全・応じた支援・信頼）に迫ることができた。



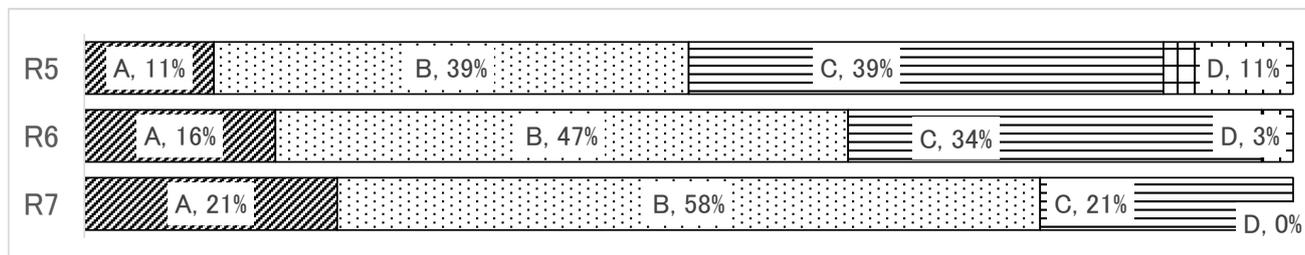
4 校訓および学校教育目標は、学校・生徒・地域の実態に即していた。



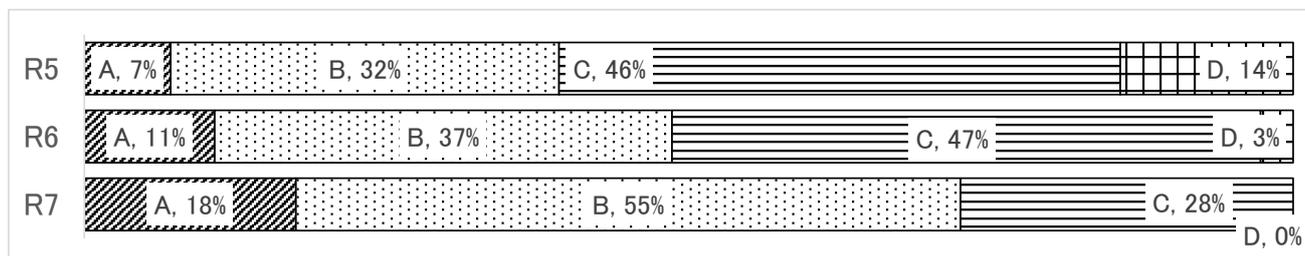
5 職員は、校訓および学校教育目標や重点目標の意義を理解し、その実現に向け協同して教育を実践していた。



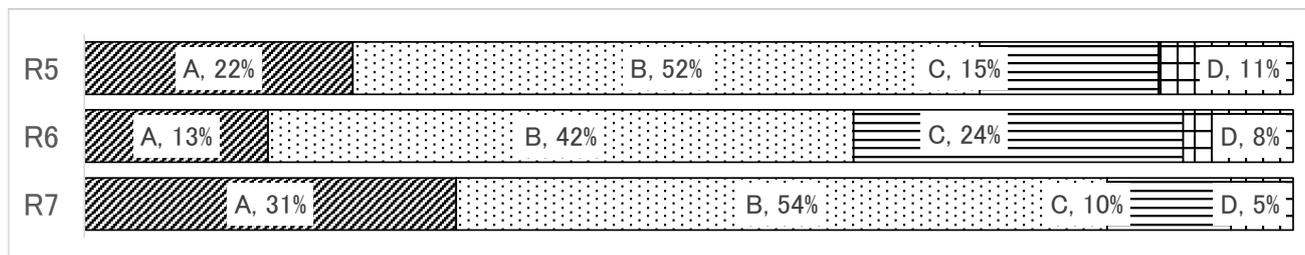
6 校務分掌組織の形態は、本校の実情に即し機能的なものになっていた。



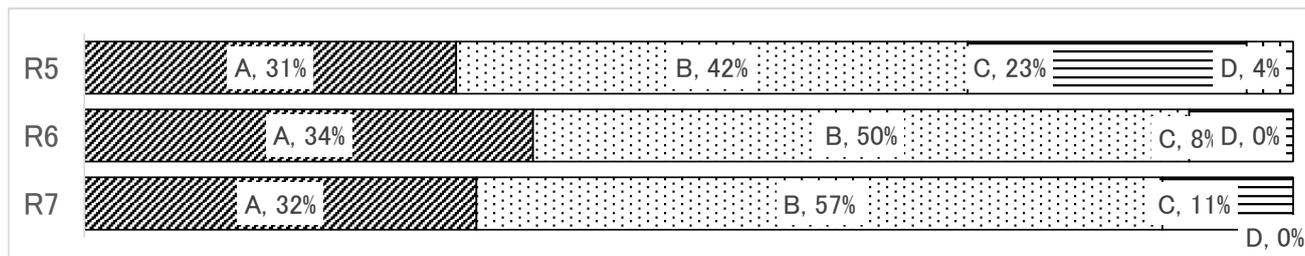
7 職員の各組織への配置は、人数や構成メンバーの教科・年齢・経験・特性などからみて適切であった。



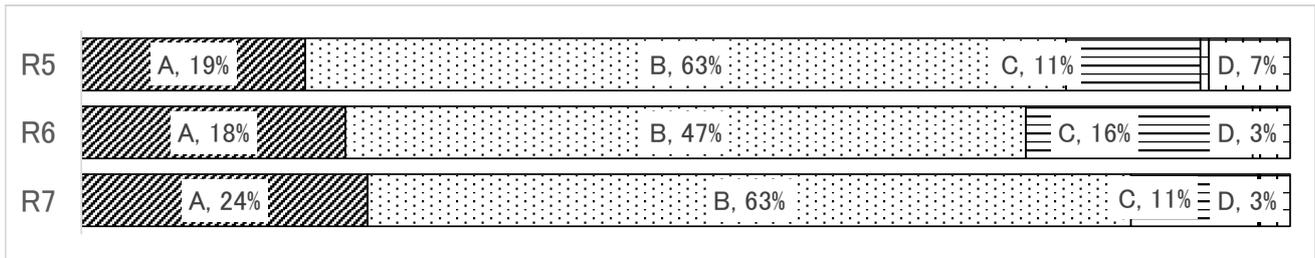
8 学年内の分掌や組織をとおして、各自がリーダーシップを発揮し、スムーズな学年運営が進められていた。



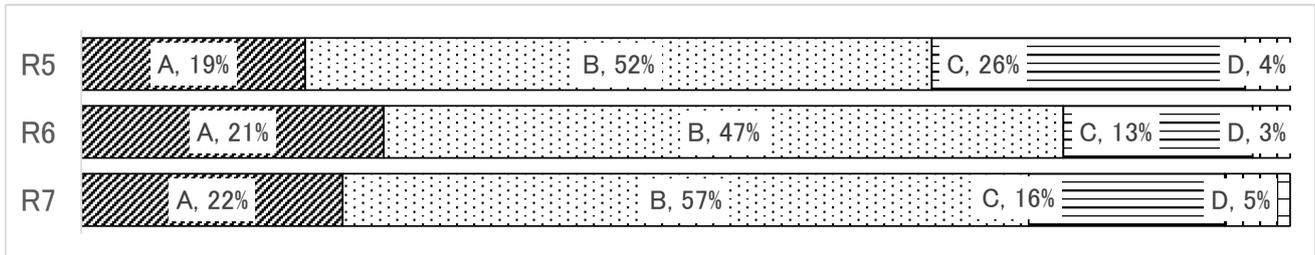
9 学年保護者会、学級懇談会、保護者面談等の計画および運営は適切であった。



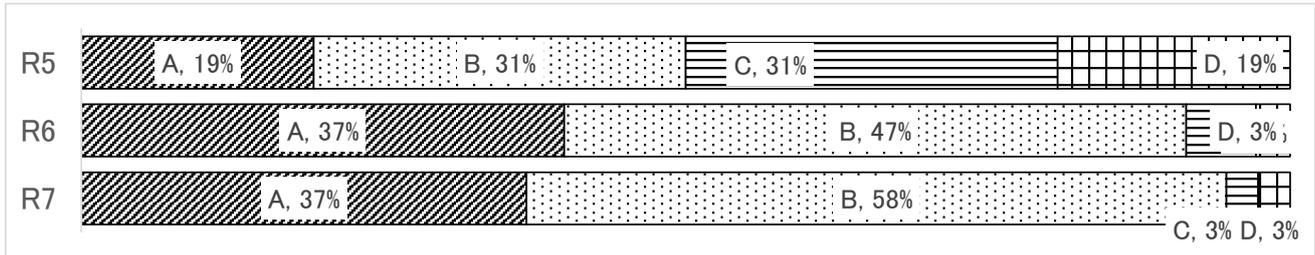
10 学級の学習環境・生活環境は適切であり、生徒の成長を促すものであった。



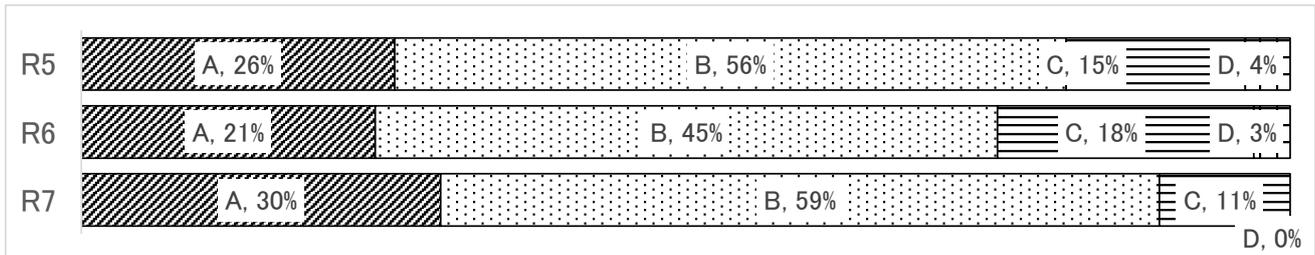
11 学級活動を活性化させ、生徒自らがより良い学級・学校づくりに向け、諸問題の解決に努める態度を養うことができた。



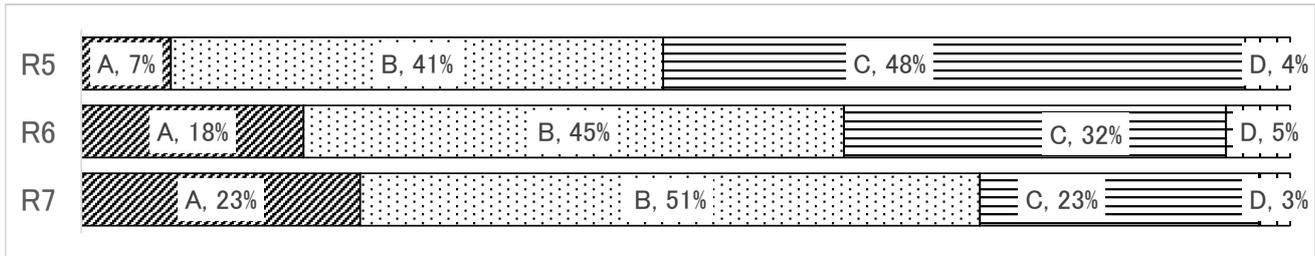
12 教育課程（各教科道徳特活行事等）は全体的な調和のもとに編成されていた。



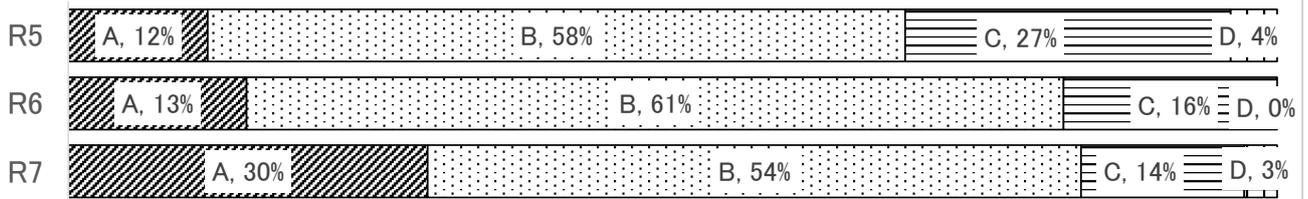
13 教科の年間指導計画や学習指導案は改善され、より適切なものとなった。



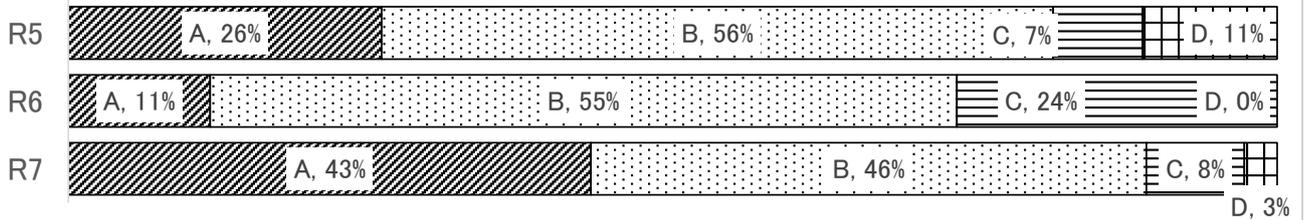
14 学校行事の種類・内容・実施時期・規模等は適切であった。



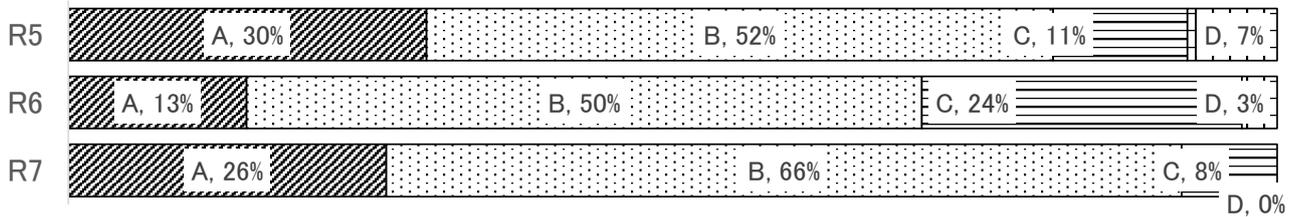
15 「わかる授業」を展開するとともに、学習優先日や試験前質問会をととして、基礎学力の定着に努めた。



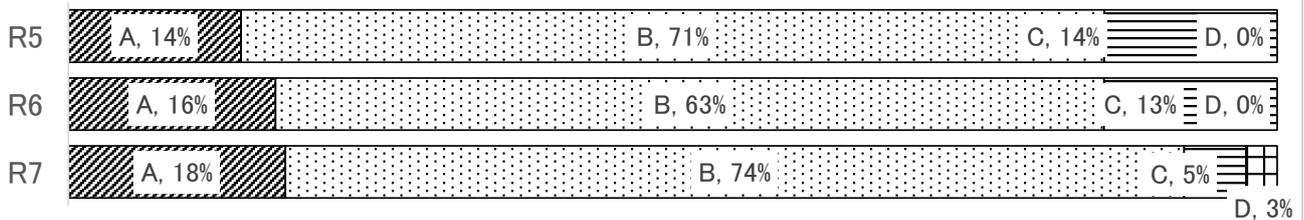
16 授業において、知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力をのばす工夫をした。



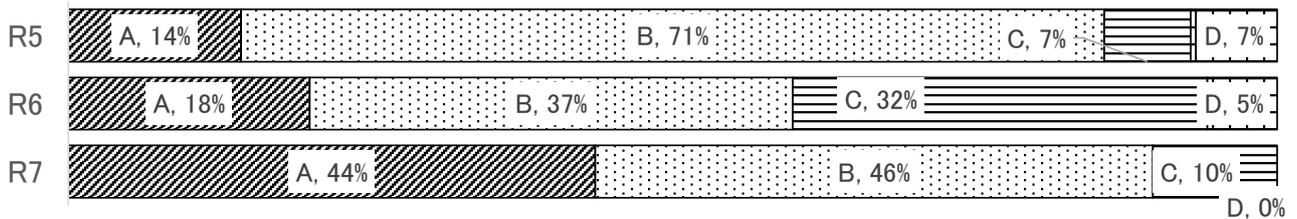
17 目標準拠の評価について十分理解し実践するとともに、自己評価や相互評価を取り入れ、指導と評価の一体化に努めた。



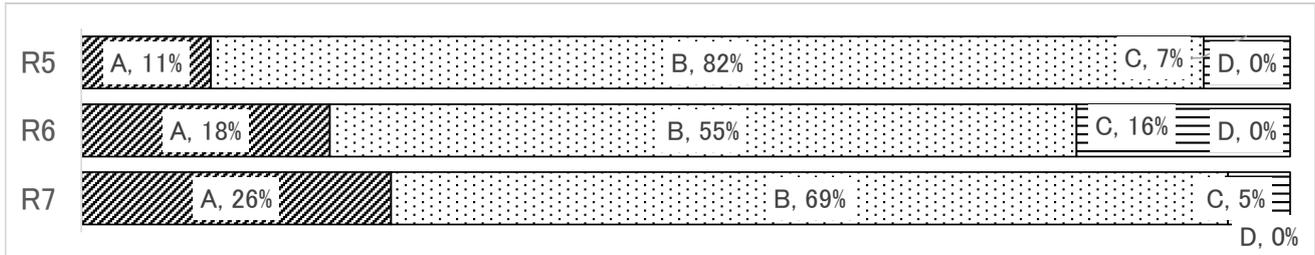
18 教育活動全般をととして、基本的な生活習慣を身につけさせることができた。



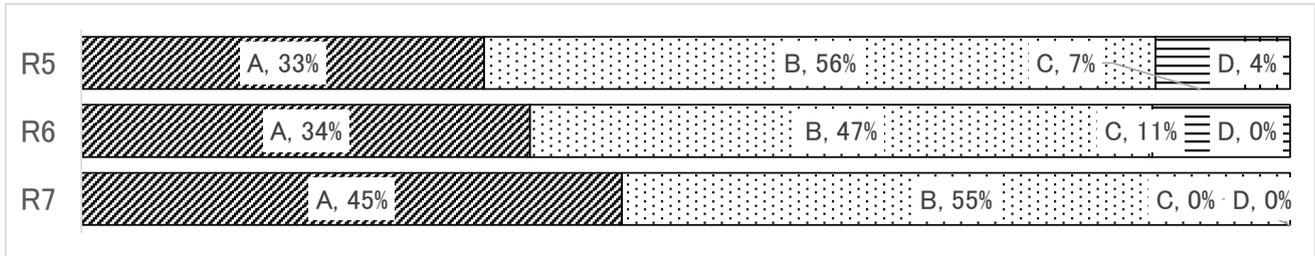
19 担任一人任せにせず、職員の共通理解と相互協力のもとで、生活指導を組織的にすすめることができた。



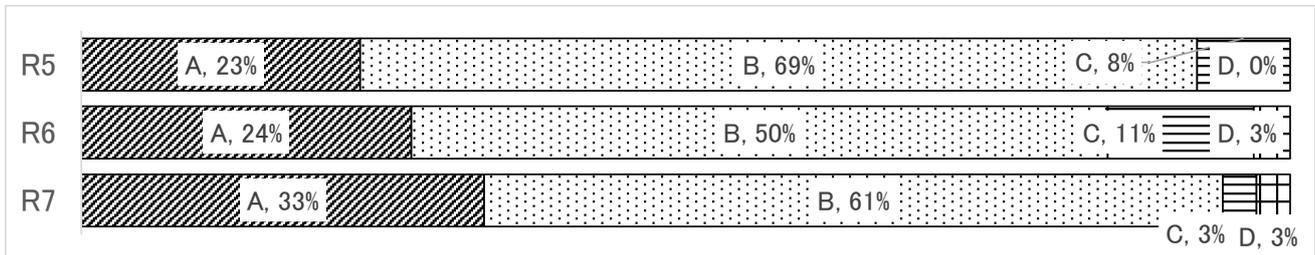
20 生徒と教師間の「語り合い」や教育相談（教育相談習慣・チャンス相談）等とおし、生徒理解を進めるとともに、好ましい信頼関係を築くことができた。



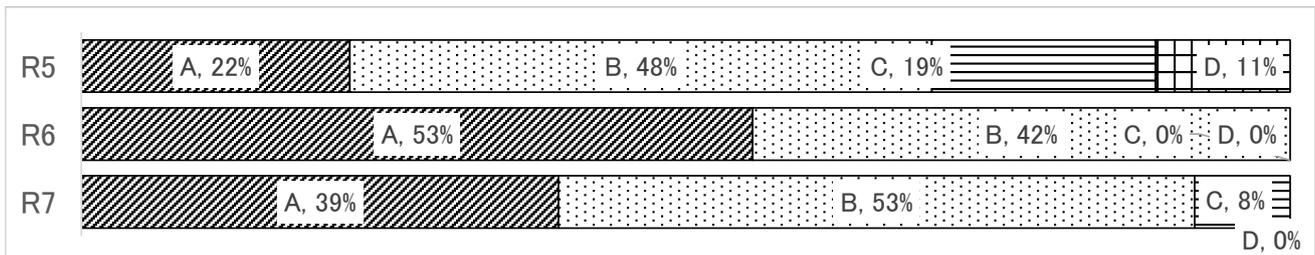
21 いじめアンケート等も活用しながら、生徒の人間関係にアンテナを高くし、いじめの「早期発見・早期対応」及び「再発防止」に努めた。



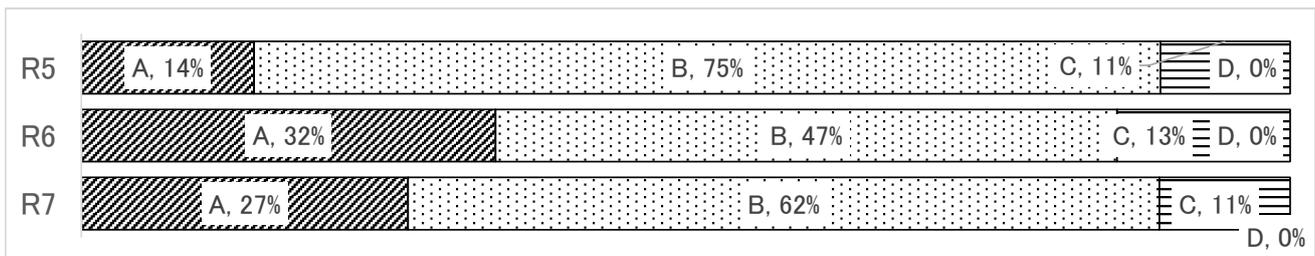
22 道徳の授業を計画的に実施するとともに、教育活動全体をととして生徒の「豊かな心」の育成に努めた。



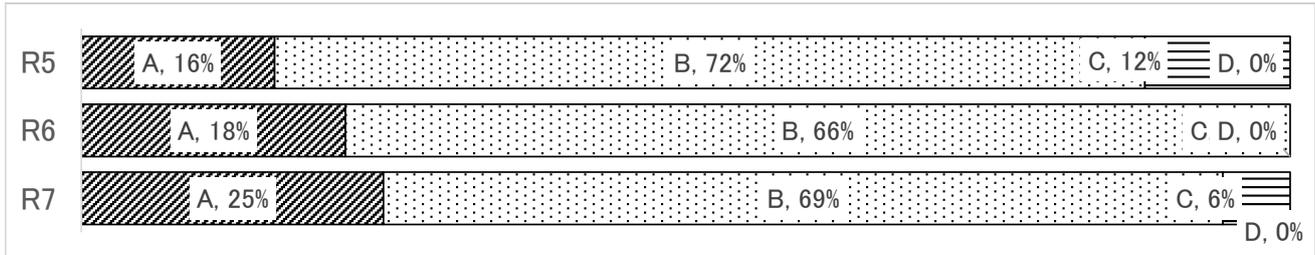
23 生徒会活動（全校評議会、生徒会行事、専門委員会等）は適切に実施された。



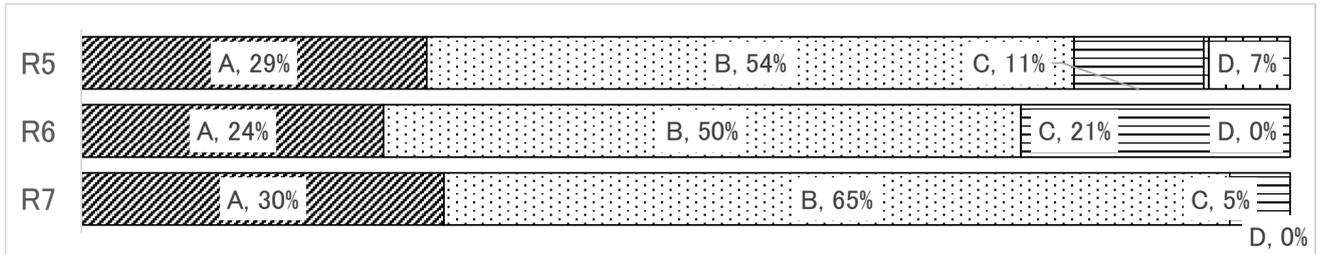
24 生徒が役割と責任を自覚し自立した集団作りができるよう促すことができた。



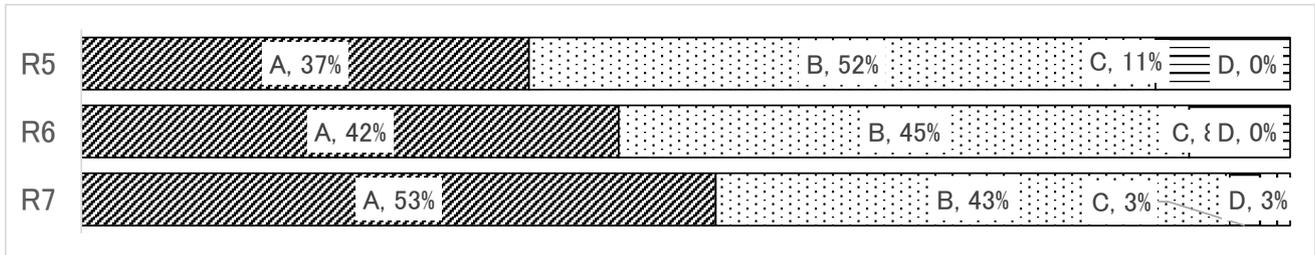
25 部活動は計画的な運営により自主性を促し、生徒の責任感や連帯感を養うことができた。



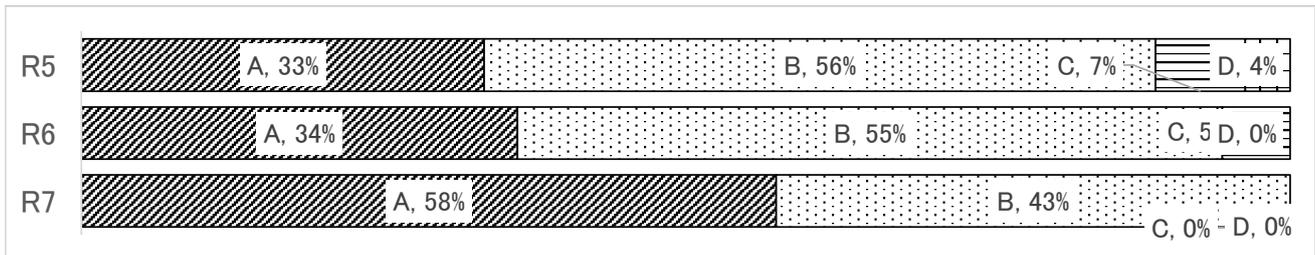
26 危機管理マニュアルに基づき、安全（交通安全・生活安全・災害安全）に関する指導が計画的に行われていた。



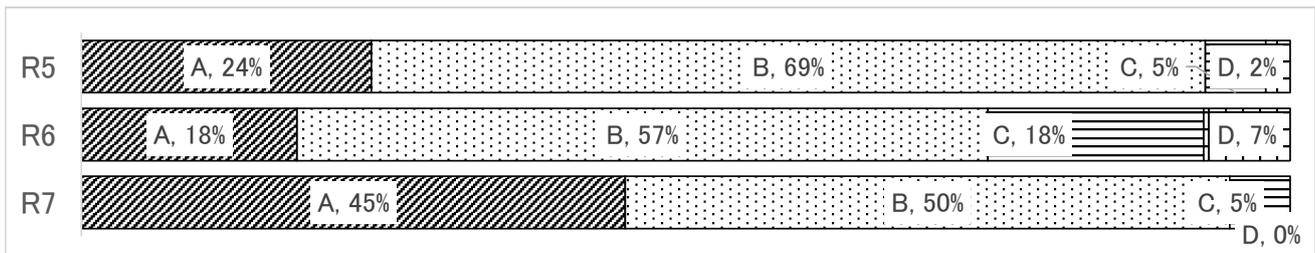
27 学校の給食計画に基づき、給食指導と食育が適切に行われていた。



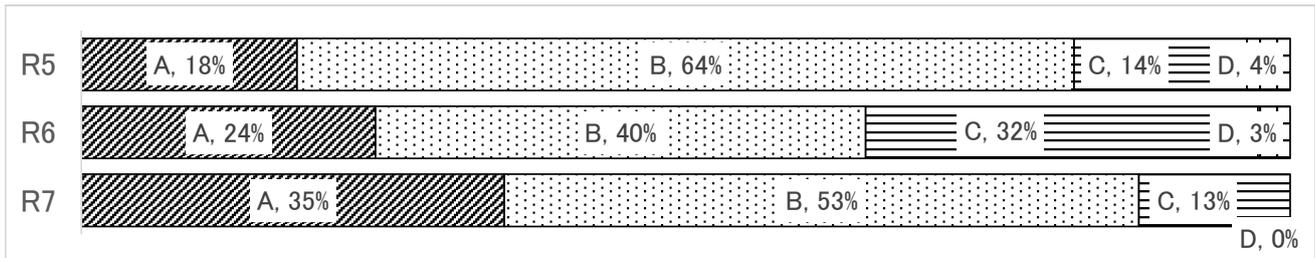
28 学校の保健計画に基づき、生徒の健康指導と管理が適切に行われていた。



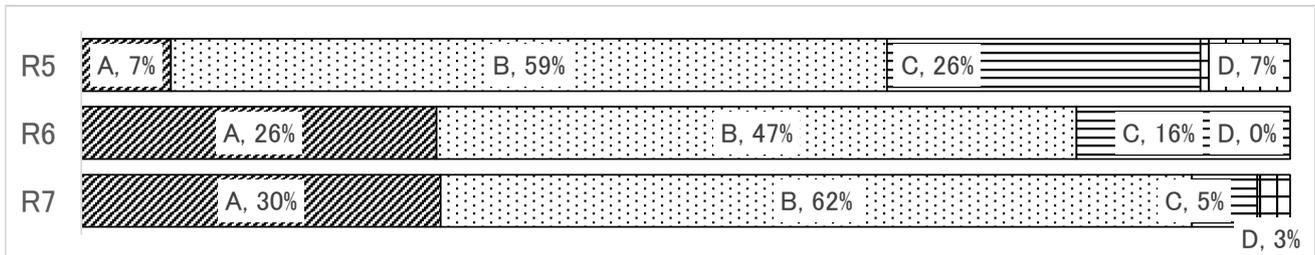
29 生徒支援・特別支援について、学校として適切な指導体制を構築することができた。



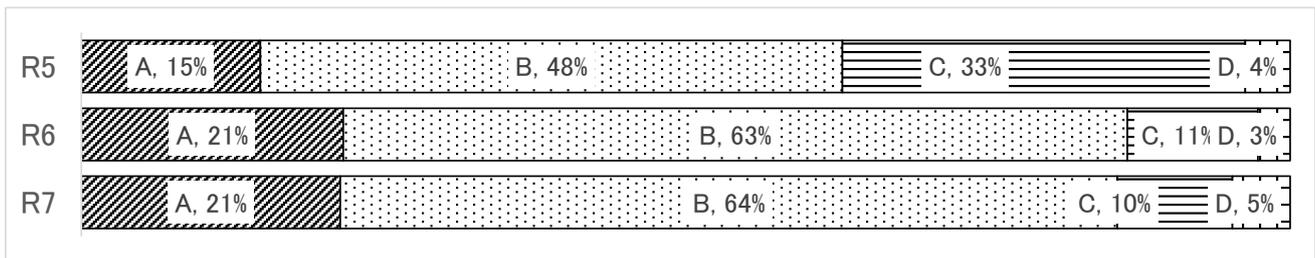
30 各職員が、特別な支援を必要とする生徒を理解し対応することができた。



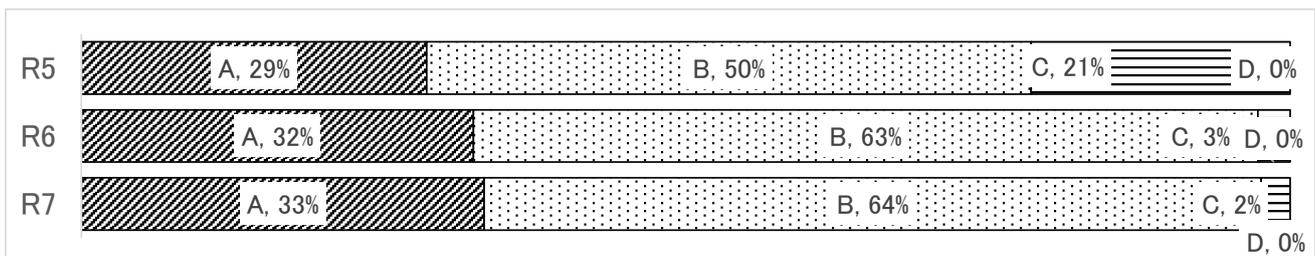
31 長欠傾向の生徒に対する指導は十分であった。



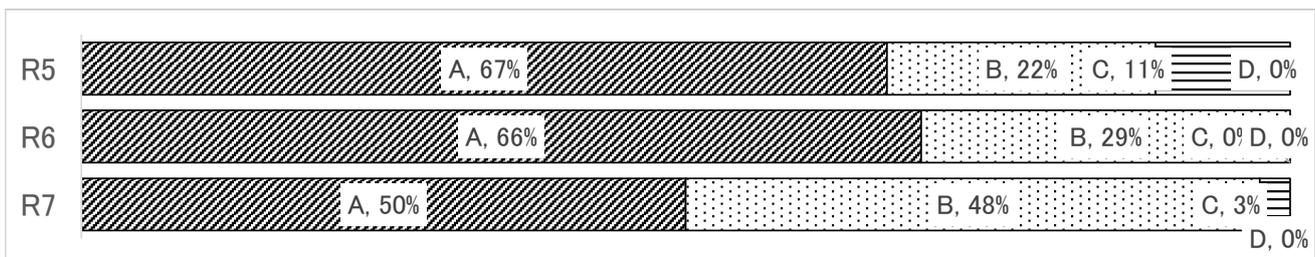
32 学校の施設・設備及び備品の管理は適切であった。



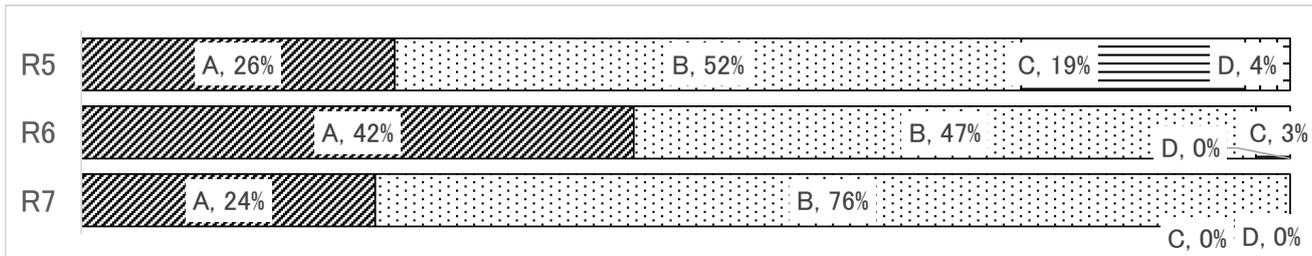
33 情報セキュリティに配慮するとともに、個人情報等の管理は適切であった。



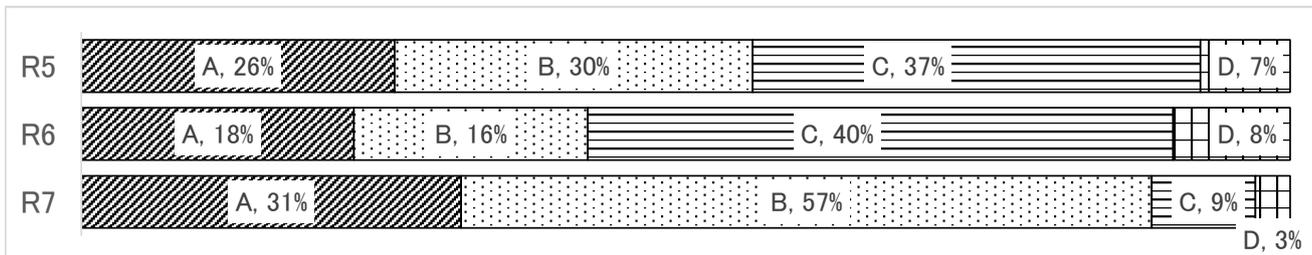
34 本校におけるPTAの活動は適切であった。



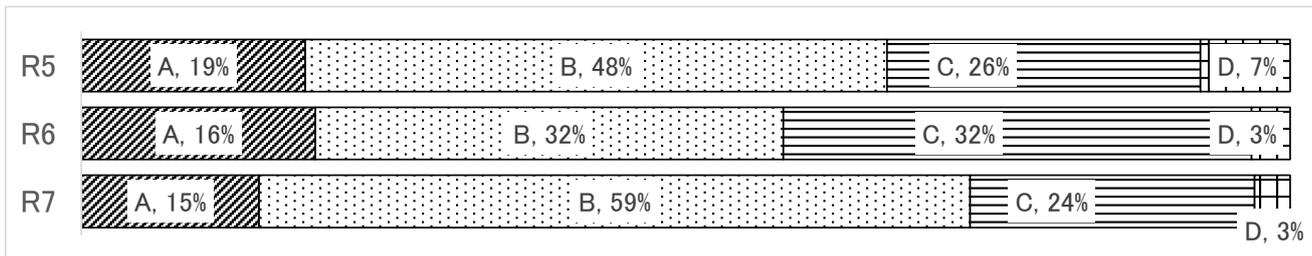
35 生徒の育成にあたり、保護者・地域の方との連携を図り、活動できた。



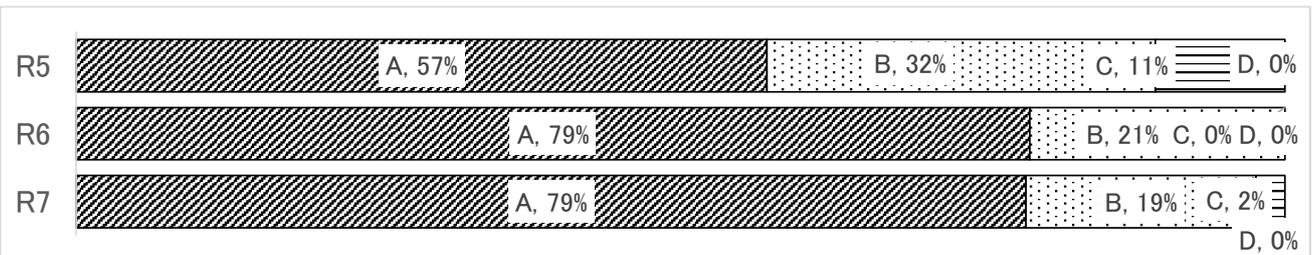
36 教科部会や研究テーマに沿った研修会が計画的に実施され、授業研究を進めることができた。



37 学校の直面する問題に適切に対応する研修会を実施することができた。



38 学校は、暑い時期の登下校時の服装について配慮することができた。



分野	重点目標	評価項目	達成・取り組み状況の評価	自己評価結果の考察に基づく今後の改善方策	学校関係者評価及び意見	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策
教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ生徒の育成と基礎学力の育成を図る学習指導。 ・心の通う生徒指導と生活指導の徹底。 ・実践することで学ぶ特別活動。 ・思いやりの心と実践力を育てる道徳、人権教育。 ・健康、体力の増進と安全教育の徹底。 ・教育環境の整備と充実。 ・家庭、地域との連携の重視と特色ある学校作り。 ・特別支援教育の充実を支える学校体制をつくる。 ・学校図書館の積極的な活用。 ・教職員の育成及び指導力の向上。 	<p>1 校訓および学校教育目標(「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒の育成～)の具現化に向け、「目指す生徒像」(自学・挨拶・掃除・時間)に迫ることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が10%増加している。 ・教職員が全体的に「自学・挨拶・掃除・時間」について、意識を高く持って教育活動にあたることができた。 ・「自学・挨拶・時間」の取組について、まだ改善の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主任会や各部会の中で、共通理解に対する意識を強化し、確実に教職員へ情報の周知徹底を図る。 ・生徒指導部会で挨拶と時間に関する声かけや指導を見直す。 ・廊下の時計のずれに対して、「時計を電波時計に変更する」または「時計を撤去する」ことで、生徒が時間を間違わないように配慮する。 ・ICTに関する研修や教科部会の充実、相互授業参観を充実させることで、教員の授業力向上を図り、「わかる授業」を展開する。 ・管理職以外の教職員を学校運営協議会に参加させることで、地域に対する教職員の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「立志・自立」はとても良い言葉であるが、今の時代では少し伝わりにくいと感じている。また、目標に向けて進むことができない生徒や、多様化する個々の状況にまでは、カバーできていないのではないだろうか。 ・教育目標「立志・自立」の具現化に向け、目指す生徒像、教職員像、学校像すべてにおいて考えを出し合い、話し合える関係であることが、重点目標に近づく改善策であると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「立志・自立」という言葉を、生徒の等身大の言葉に噛み砕き、その意義が実感できるような丁寧な説明に努める。 ・主任会をハブ(起点)として活用し、学年・分掌を越えて意見を交わらせる、風通しの良い職場づくりを推進する。 ・学校運営協議会が教職員にとって身近な存在となるよう、役割の再周知や「スポット参加」などの企画を通じ、教職員と地域との接点を強化する。
		<p>2 校訓および学校教育目標(「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒～)の具現化に向け、「目指す教職員像」(生徒に寄り添う・わかる授業・地域を愛する)に迫ることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が15%増加している。 ・公開研究会を通して、教職員の「わかる授業」への意識が高まった。 ・昨年度よりも教職員の生徒理解に努める様子が窺えた。 ・地域との関わりを強化することが課題である。 			
		<p>3 校訓および学校教育目標(「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒～)の具現化に向け、「目指す学校像」(学ぶ意欲・正義・安全・一人一人に応じた支援・信頼)に迫ることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が10%増加している。 ・教職員が生徒一人一人に寄り添って対応することができた。 ・「報告・連絡・相談」の強化と教職員同士がカバーし合う体制が必要である。 ・個に応じたより一層の支援が課題である。 			

分野	重点目標	評価項目	達成・取り組み状況の評価	自己評価結果の考察に基づく今後の改善方策	学校関係者評価及び意見	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策
学校経営・組織運営	<p>・全職員の共通理解と実践を基として、学校教育目標達成のために創意ある学校運営と時代の要請にふさわしい学校づくりを目指す。</p>	<p>4 校訓および学校教育目標は、学校・生徒・地域の実態に即していた。</p>	<p>・昨年度と同様に肯定的な意見が100%であった。 ・生徒が自主的に活動する姿がよく見られた。 ・今後は生徒がモラルやマナーについて深く考えられると立志につながる。</p>	<p>・学校教育目標や重点目標の確認を年度当初だけでなく、年度途中も確認をする機会を設けることで、教職員の目標達成に向けた意識を高める。 ・年度当初に「報告・連絡・相談」の重要性を教職員に伝え、組織的に対応できるように体制を整える。 ・校務分掌を作成するうえで、管理職だけでなく、ボトムアップで意見を集めることで、偏りを軽減する。 ・音楽科と美術科の授業時数の負担については、教務主任や教科担任と相談をし、負担を軽減する。</p>	<p>・先生方の働き方改革に積極的に取り組んでほしい。 ・教職員が連携をとり、学年を越えた相談や提案などができる工夫をしてほしい。 ・初若年層教職員のフォローをしっかりと行ってほしい。 ・休職者が出ないようにメンタルヘルスケアを徹底してほしい。</p>	<p>・業務改善委員会を設置し、ボトムアップによる教育内容の精査を行う。これにより、実効性のある教職員の働き方改革を推進する。 ・管理職、主幹教諭、各主任が密に連携し、主任会や運営委員会等の場を通じて、互いに相談し助け合える職場環境の構築に努める。 ・モラルアップ委員会をより機能的な組織とするため、校務分掌の役割を見直し、実効性のある改善を図る。</p>
		<p>5 職員は、校訓および学校教育目標や重点目標の意義を理解し、その実現に向け協同して教育を実践していた。</p>	<p>・昨年度よりも肯定的な意見が14%増加している。 ・現状に満足することなく、協同の意識を高める必要がある。</p>			
		<p>6 校務分掌組織の形態は、本校の実情に即し機能的なものになっていた。</p>	<p>・昨年度よりも肯定的な意見が16%増加している。 ・ボトムアップで意見を集め、校務分掌の偏り等の改善が多少できた。 ・肯定的な意見が79%であり、次年度も工夫・改善が必要である。</p>			
		<p>7 職員の各組織への配置は、人数や構成メンバーの年齢・経験・特性などからみて適切であった。</p>	<p>・昨年度よりも肯定的な意見が25%増加している。 ・全体のバランスを考え、教職員一人一人の意見に耳を傾け、対応した結果と考える。 ・肯定的な意見が73%なので、まだ高評価とは言えない。引き続き人員の配置について工夫・改善が必要である。</p>			

学年 学級 経営	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、学級経営を充実させ、計画的な学級活動を通して、個及び集団を育て正義が通る学級づくりを進める。 	<p>8 学年内の分掌や組織をとおし、各自がリーダーシップを発揮し、スムーズな学年運営が進められていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が30%増加している。 ・各主任が中心となり、見通しをもって学校や学年運営を行った成果である。 ・「報告・連絡・相談」のより一層の強化が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の得意分野をいかすために、情報収集を強化する。そのために意見交換できる機会を今まで以上に設ける。 ・主任会や運営委員会を中心に意見交換を行い、適切な年間行事予定を作成する。 ・学習指導部や特活指導部を中心に、各教職員のオリジナリティを大切にしつつ、共通理解のもと統一された環境整備を行う。 ・教務主任や特活指導部と連携し、年度当初に「学級目標」の作り方について確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員や講師の技術力・経験に差があり、学年・学級に及ぼす影響を心配している。 ・学級活動を通して、個及び集団がどのような場面でも正義が通ることの重要性を味わうようにしてほしい。 ・学年、学級でもよく相談できる環境づくりと多様な意見が尊重されるように話し合いを重ねてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のキャリアステージに応じた相互支援体制を校務分掌に反映させる。主幹教諭がパイプ役となり、現場の声を吸い上げるボトムアップ型の合意形成を重視することで、実効性のある教育活動を推進する。
		<p>9 学年保護者会、学級懇談会、保護者面談等の計画及び運営は適切であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が5%増加している。 ・本年度実施した結果、次年度に向けて細かい調整が必要なものの、大きな問題はなかった。 			
		<p>10 学級の学習環境・生活環境は適切であり、生徒の成長を促すものであった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が22%増加している。 ・おおむね学級環境は整ってきた。 ・教職員の中には統一意識も必要との意見があったので、次年度に向けて検討する。 			
		<p>11 学級活動を活性化させ、生徒自らがより良い学級・学校づくりに向け、諸問題の解決に努める態度を養うことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が11%増加している。 ・発達段階に応じて「生徒に任せるところ」と「教職員が導くところ」を考える必要がある。 ・学級目標について、実態を考えたいうえで「何を達成させたいのか」をはっきりさせるとさらによい。 			

教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に努め、基礎的・基本的事項の徹底と個に応じた指導及び知識・技能の活用を図る単元開発を通じて、学力の向上を図る。 ・自主的な学習習慣と態度の育成を図る。 	<p>12 教育課程(各教科道徳特活行事等)は全体的な調和のもとに編成されていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が11%増加している。 ・教務主任が中心となり、教育課程を適切に調整した成果である。 ・年間で「学級活動」と「総合的な学習の時間」を増やすための調整が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特活指導部を中心に、行事の縮小・精選を行う。 ・研究主任を中心として、今年度中に公開研究会を通して学んだことを振り返り、次年度以降の目標を定める研修を行う(1月に実施済み)。 ・学習指導部を中心として、試験前質問会のあり方を検討する。 ・研究主任を中心として、相互授業参観の推進や授業改善に向けた研修を実施する。 ・評価に関する研修会を今年度中に実施する(3月実施予定)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会の取組を通して、授業での知識や技能を活用し、生徒の力を伸ばす工夫をされたことは高く評価できる。 ・学校全体で公開研究会の取組をすることによって、意識向上ができたことは高く評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会の成果を日常の教育活動に還元するため、教務・研究主任等を中心に推進体制を強化する。教科部会での研究深化や相互授業参観の活性化を通じ、教職員の授業改善を促す環境を整備する。
	<p>13 教科の年間指導計画や学習指導案は改善され、より適切なものとなった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が23%増加している。 ・公開研究会の取組を通して、大きく改善されたと考えられる。 				
	<p>14 学校行事の種類・内容・実施時期・規模等は適切であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が11%増加している。 ・肯定的な意見が74%なので、引き続き行事の精選や実施方法、実施時期の工夫が必要である。 				
	<p>15 「わかる授業」を展開するとともに、試験前質問会をとおして、基礎学力の定着に努めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が10%増加している。 ・試験直前の勉強時間の確保という点では一定の成果があった。やり方についてはさらに検討が必要である。 				
	<p>16 授業において、知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力をのばす工夫をした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が23%増加している。 ・公開研究会の取組による意識向上が好転した要因と考えられる。 				
	<p>17 目標準拠の評価について十分理解し実践するとともに、自己評価や相互評価を取り入れ、指導と評価の一体化に努めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が29%増加している。 ・昨年度の反省を基に各教科で見直しが行われた成果と考えられる。 				

生徒指導・道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導体制を確立し、共通理解を元に組織で行動できる教師集団を目指す。 ・基本的な生活習慣と望ましい生活態度の形成を図る。 ・「目指す生徒像」を通し生徒とともに創りあげる学校を目指す。 ・教師と生徒、生徒同士など語り合いを通して、信頼できる人間関係の構築に努める。 ・道徳の授業の確保に努め、意図的、計画的な実践を通して生徒一人一人の道徳的実践力を高める。 	<p>18 教育活動全般をとおして、基本的な生活習慣を身につけさせることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が13%増加している。 ・教職員が「同一歩調」で指導することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣について、肯定的な意見が生徒88%、保護者91%、教職員92%であった。おおむね身についていると判断できるので、今年度同様の取組を次年度も続けていく。 ・朝の打合せの際に、「報告・連絡・相談」の徹底や記録をとることの重要性について、都度声かけを行う。 ・生徒指導主事を中心として、本校の実態にあった指導方法や支援方法を教職員に周知し、諸問題について組織的な対応が行われるように資料提供や研修を行う。 ・道徳教育推進教師を中心として、全学年で道徳の授業改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見が何より大切と思う。職員間のコミュニケーションを心がけて、いつでも相談しやすい環境をつくってほしい。 ・清掃を通じた勤労観の育成など、道徳教育は今の時代に合った教育を目指してほしい。とても大切な分野と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導主事を中心に、いじめの早期発見・対応に関するケーススタディや振り返りを定期的実施する。生活部会や職員会議を活用して、最新の知見や正しい知識を全教職員に周知徹底し、組織的な対応力を高める。 ・管理職および主幹教諭が中心となり、教職員の声を丁寧に汲み取る体制を構築する。日常的なコミュニケーションを活性化させ、誰もが安心して相談し、相互に支え合える職場環境の整備に努める。 ・道徳教育推進教師と各学年の道徳科担当者が、密に情報共有および協議を行える時間を確保する。これにより、学年間のバラつきをなくし、共通理解に基づいた指導体制を構築する。
	<p>19 担任一人任せにせず、職員の共通理解と相互協力のもとで、生徒指導を組織的にすすめることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が35%増加している。 ・昨年度よりも教職員がお互いに支え合ったことが好転につながったと考えられる。 ・「報告・連絡・相談」の大切さを再確認する必要がある。 				
	<p>20 生徒と教師間の「語り合い」や教育相談(教育相談週間・チャンス相談)等をおし、生徒理解を進めるとともに、好ましい信頼関係を築くことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が22%増加している。 ・昨年度の反省を基に教職員が生徒理解に努めた結果であると考えられる。 				
	<p>21 いじめアンケート等も活用しながら、生徒の人間関係にアンテナを高くし、いじめの「早期発見・早期対応」及び「再発防止」に努めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が19%増加している。 ・教職員が常にアンテナを高く保ち、それぞれの事案に対応した結果と考えられる。 				
	<p>22 道徳の授業を計画的に実施するとともに、教育活動全体をとおして生徒の「豊かな心」の育成に努めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が20%増加している。 ・今年度もローテーション道徳を継続し、各教職員が1つの題材について、生徒により深く内容を考えさせることができた。しかしながら、現状に満足することなく、道徳科の更なる授業改善が必要である。 				

特別活動等	<ul style="list-style-type: none"> 各活動において、生徒の自発的な活動を展開し、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育み、生徒の可能性を信じ、社会的自立に向け志を立てて自ら努力するように導き、支えることを目指す。 	<p>23 生徒会活動(全校評議会、生徒会行事、専門委員会等)は適切に実施された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりも肯定的な意見が3%減少している。 肯定的な意見は92%であり、昨年度並みの高評価である。今後、行事の更なる精査も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動指導部を中心に、行事の更なる精査を行う。 年度当初の部活動顧問会議で、部活動ガイドラインの周知徹底と評価項目の確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主性を伸ばすためにも特別活動は大切だと思う。生徒の連帯感や責任感が育つので良い活動だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動指導部や部活動担当者が中心となり、行事や活動の場面で生徒の主体性が発揮されるよう、積極的な支援と働きかけを行う。
健康・安全	<ul style="list-style-type: none"> 災害への日常の備えや的確な避難行動ができるようにし、防災意識の高揚を図る。 栄養指導を充実し、体力の向上と健康の増進を図る。 	<p>26 危機管理マニュアルに基づき、安全(交通安全・生活安全・災害安全)に関する指導が計画的に行われていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりも肯定的な意見が21%増加している。 危機管理マニュアルのデジタル化によって、教職員がいつでも閲覧できる状況をつくることができた。 避難訓練について、見直しが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全意識を高めるために避難訓練に体験活動を組み込み、引き渡し訓練についても実施する。 残菜を減らせるように、学級活動の時間や総合的な学習の時間に食育を取り入れる。 健康については、生徒・教職員のアンケート結果(高)と保護者のアンケート結果(低)にずれが見られた。広報活動を活発化することで、改善を試みる。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育は必修なので、日頃から訓練などを通して、安全意識を高めてほしい。 食育は学校給食指導で力を入れてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全主任を中心に防災教育の見直しを図る。 学習指導部と栄養職員が密に連携し、学級活動の時間や総合的な学習の時間、集会等において、できる限り食育に関する学習機会を設ける。生徒が自らの健康や食文化について深く学び、実践できる力を養う。
		<p>27 学校の給食計画に基づき、給食指導と食育が適切に行われた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりも肯定的な意見が9%増加している。 肯定的意見が96%と今年度も高い数値であった。 現状に満足することなく、残菜の更なる減少に力を入れる必要がある。 			
		<p>28 学校の保健計画に基づき、生徒の健康指導と管理が適切に行われていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的な意見が昨年度より12%増加している。 養護教諭を中心として、健康に関する生徒への指導に力を入れた成果と考えられる。 			

生徒支援・特別支援	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターの役割を明確にして、校内委員会の機能を生かし関係機関と連携した総合的な支援体制の整備を推進する。 	29 生徒支援・特別支援について、学校として適切な指導体制を構築することができた。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりも肯定的な意見が20%増加している。 生徒指導主事を中心として、校内不登校支援センター担当者と特別支援教育コーディネーターと連携して取り組んだ成果と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も引き続き、必要に応じてケース会議を開き、個別の教育支援計画や個別の指導計画を充実させる。 船橋市教育委員会と連携し、オンライン授業やオンライン教材の評価について確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体の取り組みとして、更に理解を深めてほしい。 特別支援教育への教職員配置はまだまだ不足しているのではないかと感じている。 職員間で共通意識を持って生徒支援や特別支援の適切な指導が共有されることを望みます。 長欠傾向の生徒に対する学校全体での支援をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーター、校内教育支援センター担当、および研究主任が連携し、「配慮」を必要とする生徒への共通理解を深める。生活部会の活用や資料配布を通じ、全教職員の専門性向上と指導力の強化を図る。
		30 各職員が、特別な支援を必要とする生徒を理解し対応することができた。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりも肯定的な意見が24%増加している。 教職員が生徒理解に努め、お互いに助け合いながら対応した結果と考えられる。 			
		31 長欠傾向の生徒に対する指導は十分であった。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりも肯定的な意見が19%増加している。 生徒指導主事を中心として、適切な支援が行われた結果と考えられる。 オンライン授業やオンライン教材の評価について検討が必要である。 			
施設設備・情報管理	<ul style="list-style-type: none"> 教育環境の整備・充実を図るとともに、情報セキュリティに留意する。 	32 学校の施設・設備及び備品の管理は適切であった。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりも肯定的な意見が1%増加している。 肯定的な意見が85%と昨年度並みの評価であった。 備品について、要・不要の判断を適切に行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒目線の安全点検を実施する。 教職員の物の管理や整理整頓について、教務主任や学年主任と連携して都度注意喚起する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校舎等の長寿命化を図るために地域の協力を呼びかけてほしい。 施設、設備の老朽化に対して改善していくのは大変だと思う。PTAのOBなどの協力を仰ぐと良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職や安全主任が中心となり、生徒・教職員・地域住民が一体となって「自分たちの学校を自分たちで守り育てる」という当事者意識を醸成する。安全管理や環境整備において、学校と地域が協働する体制を強化する。
		33 情報セキュリティに配慮するとともに、個人情報等の管理は適切であった。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりも肯定的な意見が2%増加している。 今年度もチェックシート等を用いて教職員に振り返りの機会をつくり、意識向上に努めた結果と考えられる。 			

地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会、関係機関との連携を密に図り、相互の情報交換を通して、教育の醸成に努める。 	<p>34 本校におけるPTAの活動は適切であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が3%増加している。 ・今年度も講演会や習中縁日等、活動が充実していたためと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の充実化を図る。 ・積極的に地域行事の紹介を生徒向けに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事に生徒が関わる機会があり、高く評価できる。町会のお祭りなどにも積極的に参加すると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の機能を活用・充実させることで、地域社会とのネットワークを再構築し、学校と地域の双方向的なつながりを強化する。 ・校内の掲示板やICT機器を積極的に活用することで、地域行事の周知を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力をはぐくむ指導法の研究」として「知識・技能の活用」についての単元(題材)の工夫について、研究を進める。 	<p>35 生徒の育成にあたり、保護者・地域の方との連携を図り、活動できた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が11%増加している。 ・昨年度よりも保護者との連携を深めることができたためと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務主任と連携して、年間で教科部会を定期的に関催できるようにする。 ・研究主任と連携して、必要とする研修のアンケートを教職員にとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員にとって、研究・研修は必要だと思う。時間のない中でも工夫して研修・研究をすることで指導力の向上などを目指してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務主任や研究主任が中心となり、教職員が主体的かつ継続的に研修・研究に取り組める体制を整える。具体的な校務の調整や時間の確保等を通じ、組織的な指導力向上を支援する。
研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力をはぐくむ指導法の研究」として「知識・技能の活用」についての単元(題材)の工夫について、研究を進める。 	<p>36 教科部会や研究テーマに沿った研修会が計画的に実施され、授業研究を進めることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が54%増加している。 ・公開研究会の取組を通して、計画的に研修会を行い、授業研究を進めることができた成果と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務主任と連携して、年間で教科部会を定期的に関催できるようにする。 ・研究主任と連携して、必要とする研修のアンケートを教職員にとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員にとって、研究・研修は必要だと思う。時間のない中でも工夫して研修・研究をすることで指導力の向上などを目指してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務主任や研究主任が中心となり、教職員が主体的かつ継続的に研修・研究に取り組める体制を整える。具体的な校務の調整や時間の確保等を通じ、組織的な指導力向上を支援する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症防止に努める。 	<p>37 学校の直面する問題に適切に対応する研修会を実施することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が26%増加している。 ・「確かな学力の向上」に関する研修会を実施することができた。 ・教職員の希望に添った研修会を企画する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も継続して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康が第一なので、登下校の服装などの暑さ、寒さ対策をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携をとりながら、状況に応じた支援を継続する。
熱中症対策等	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症防止に努める。 	<p>38 学校は、暑い時期の登下校時の服装について配慮することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的な意見が2%減少している。 ・肯定的な意見が98%と昨年度並みの高評価であった。 ・計画的に取り組んだ成果と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も継続して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康が第一なので、登下校の服装などの暑さ、寒さ対策をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携をとりながら、状況に応じた支援を継続する。